



中学生の職場体験学習の様子（7頁参照）

【主な記事】

- 巻頭言／自己PR、まずは組織名から（研究管理監（綾部担当））
- 研究の紹介
 - ・圃場や作業の情報管理をお手伝い
 - ※圃場地図上で作付けや作業進捗をビジュアルに管理※
 - ～「作業計画・管理支援システム」の開発～（生産支援システム研究近中四サブチーム）
 - ・農業機械での計測・制御のためのネットワークシステム（環境保全型野菜研究チーム）
 - ・豆腐の加工に適した大豆新品種の育成に向けて（大豆育種研究近中四サブチーム）
- トピックス
 - ・鳥獣被害、果樹の先進技術を学ぶ～革新的農業技術習得研修～
 - ・中学生の5日間～職場体験学習～
- 今後の予定
 - ・平成20年度地域マッチングフォーラム開催案内
 - ・平成20年度近畿中国四国農業研究センター一般公開開催案内
- 人の動き



自己PR、まずは組織名から

研究管理監(綾部担当) 楠田 宰

綾部研究拠点へ赴任して半年が過ぎました。私の初任地は福山でしたので、当研究所での勤務は2回目となります。最初の勤務時の組織名は「農林水産省中国農業試験場」でしたが、現在の名称は、「独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構近畿中国四国農業研究センター」と、35文字のとても長いものです。これに「綾部研究拠点」を加えると、なんと41文字になります。会議等での自己紹介の時には、自分でも言うのが面倒くさくなる時があります。当人でさえそういう状態ですので、我々が所属する組織の名称を相手に正確に認知してもらえる確率は決して高いものではありません。

新しい組織となって8年が経とうとしています。現在の組織名が浸透していないことを実感することがあります。福山駅でタクシーに乗って、行き先を「近畿中国四国農業研究センター」あるいは「近中四農研」と告げても、運転手さんに怪訝な顔をされることがあります。今でも「中国農試」の方が通りがいいのです。また、綾部研究拠点は、明治44年から昭和58年まで蚕糸に関する試験場として歩んできた歴史があるため、地元の人(特に年配者)の間では、いまだに「蚕試」という認識が持たれているようです。これら、昔の呼び名の浸透には、諸先輩方が積み重ねてきた伝統の重みを感じるとともに、8年前に新たに発足した組織としての自己PR(広報活動)のあり方はどうだったのか反省すべき点があるのではないかと感じます。

平成13年に12の農業関係の国立試験研究機関が統合・再編され、独立行政法人農業技術研究機構となりました。その後、組織改編によってその名称は「農業・生物系特定産業技術研究機構」、さらに現在の「農業・食品産業技術総合研究機構」へと変わりました。組織の内容を正確に示すためには致し方のないことだったと思いますが、長く覚えにくい名称が、数年ごとに変わっていききました。この結果、毎年優れた研究成果を出しているにもかかわらず、今一つ国民の認知度が低いと思われま

独立行政法人は、「国民生活及び社会経済の安定

等の公共上の見地から確実に実施される必要があり、民間に委ねた場合には必ずしも実施されないおそれがある事務・事業を、効率的かつ効果的に行わせるための主体」とされており、その予算の大半は、政府からの運営費交付金によっています。このようなことから、その組織がどのような研究活動を行い、どのような成果を出しているのか、そしてどう役にたっている組織なのかを国民に広く知ってもらわなければならない。

このため、まず一つ目の方策として、組織の認知度を高め、また、組織としての一体的広報を推進するために、統一ロゴの使用と、「農研機構」という略称の定着を図っています。近畿中国四国農業研究センターを始めとする内部研究所は、それぞれが単独で存在しているのではなく、農林水産省が所管する独立行政法人「農研機構」を構成する一つの内部組織です。このため、〇〇研究所、〇〇研究センターという前に、まずは「農研機構」本体の認知度を高めようというものです。この視点は重要で、農研機構すなわち農業・食品産業技術総合研究機構という組織の存在が広く認識されなければなりません。

一方、地域に立脚する地域農業研究センターは、中期計画に基づいた研究を推進し成果を出して発信していくとともに、地域に密着した研究活動も不可欠です。これら両者をいかに折り合いをつけていくかは難しいことですが、両立していくことこそが地域農業研究センターの存在意義だと思います。

綾部研究拠点では、都市に近接した中山間農業地域という立地条件を活かして、環境保全型野菜栽培技術の開発研究に取り組んでいます。今後も「農研機構」の環境調和型野菜生産技術開発の研究拠点という役割を果たしていくとともに、地元を始めとする外部に対してその存在と研究成果をしっかりとアピールしていきたいと思っています。10月9日(木)には綾部研究拠点を一般公開します。是非とも来所いただき、「農研機構 近中四農研 綾部研究拠点」で実施している研究の一端を知っていただければ幸いです。

圃場や作業の情報管理をお手伝い ※圃場地図上で作付けや作業進捗をビジュアルに管理※ ～「作業計画・管理支援システム」の開発～

生産支援システム研究近中四サブチームでは、圃場や作付け、栽培管理作業に関する情報を、WindowsPC（Windows OS の搭載されたパーソナルコンピュータ）上で圃場の地図を表示しながら視覚的に管理できるソフトウェアを開発しWeb上で公開しています。

● 圃場地図上表示により一目で状況を把握

この「作業計画・管理支援システム」の最大の長は、データ入力された圃場や作付け、作業などについての情報を圃場地図上に着色表示して一目で状況を確認できることです（図1）。

このシステムには、圃場情報（地図、所有者、地番、面積、土地利用など）、圃場所有者や作業者の情報、栽培する作物の情報、使用する肥料や農薬、機械などの情報、圃場ごとの作付けや日々の栽培管理作業などの情報を入力できます。これらの情報をデータとして入力・蓄積していくことで、農地の管理や作付け・作業についての情報管理や書類作成事務をお手伝いできるようになっています。



図1 「作業計画・管理支援システム」画面例
（左：作付け状況表示、右：作業進捗状況表示）

● 入力データに基づき情報管理事務を効率化

このシステムによる栽培管理事務省力化の一例として、入力されたデータ（農家情報や作付け情報）に基づいて「水稲共済細目書異動申告票」（マイクロソフトエクセルで作成された様式）という書類を自動作成できます。これにより、役所と連携して春先の面倒な書類作成事務を効率化できます（図2）。

この他にも、エクセル様式として作成された色々な書類を作成できるようにしていく予定です。

● データ一括入力できるように工夫

このようなシステムもデータが入力されなければ意味がありません。しかし、数十～数百の圃場を管

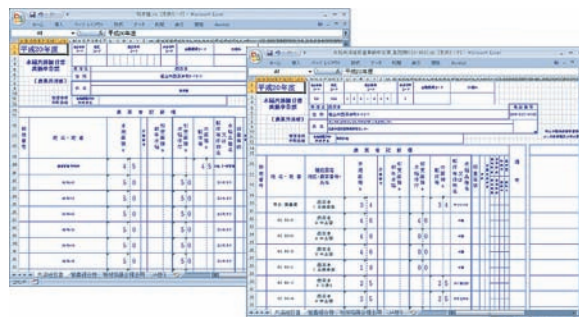


図2 水稲共済細目書異動申告票作成支援機能
（左：個人農家用、右：生産集団用）



図3 データ一括入力の操作例
（左から圃場検索→選択圃場画面→一括入力）

理していると、一つ一つの圃場について日々入力するのは大変です。そこで、できるだけ複数の圃場に対して一度にデータ入力できるようになっています（図3）。

● 圃場地図の作成にも対応

このシステムを運用するには、対象となる地域の圃場地図が必要となりますが、システムに含まれている圃場地図作成支援ソフトウェアを使って地図を作成したり毎年更新したりできるようになっています。

● Web公開と普及・利用状況

このシステムはWebサイトで公開されているので、Windows PCとインターネット接続環境があれば、無償でダウンロードし使ってみることができます。

2007年6月の公開以降2008年6月末時点で200名を越える方々のダウンロード利用があり、その中には「農業経営に即活用」ということで利用いただいている例もかなりあります。

このシステムは利用者のみなさまから寄せられた意見・要望を踏まえながら現在も進化し続けています。最新情報や入手方法についてはシステム情報公開サイト（<http://www.aginfo.jp/PMS/>）をご覧ください。

（生産支援システム研究近中四サブチーム 吉田 智一）
http://wenarc.naro.affrc.go.jp/team_group/subteam/a01_supportsystem/

農業機械での計測・制御のためのネットワークシステム

近年、燃油価格や肥料価格の高騰が著しく、環境負荷低減の観点だけではなく、生産コスト削減の観点からも肥料の施用量の削減の必要性に対する意識が高まってきています。施用量の適正化は土壌診断をベースに、圃場に合った施肥設計を立てて行うことが肝要であり、この圃場の土壌特性に基づいた肥料の施用量という情報に対し、精度良く施用することが機械に求められます。

ここでの肥料の施用量のように作業の目標となる情報を実際の作業に反映させるため、あるいは、実際に行った作業情報を収集・記録するためには、トラクター等の農用車両内の情報通信のシステムの利用が有効で、自動車等で利用されているCAN (Controller Area Network) というネットワークシステムを利用することができます。最近では、農業機械における情報通信の国際規格ISO11783が策定され、大型の農業機械を中心に本規格に対応した機械が販売されています。この公開された統一規格を利用し、より簡単に、圃場情報や作業情報を生産現場で活用できる仕組みが今後必要となってきます。

現在開発している農用車両内のネットワークシステムは、速度計測機器、繰出し制御機器、設定入力機器、速度表示機器等に、それぞれ小型のマイコンが搭載されており、1本の情報通信のケーブル上にこれらをつなぐと、個々のマイコンがお互いに情報をやりとりして、速度の計測や走行速度に連動した肥料散布制御を行うシステムです。レタスの栽培において、畝をたてる、施肥を行う、ビニールマルチを張るといった3つの作業を1工程で行う「畝たて施肥マルチャ」に搭載して試験を行っています(図)。このシステムでは、駆動輪からの動力により、走行距離に応じて機械的に肥料を繰り出すものに比べ、機器の配置が自由にレイアウトできるので、比較的簡単に多様な機械に取り付けることができます。また、必要なセンサーや機能を選択したり、新

しい機能を追加したりすることが比較的簡単に行えます。このことは開発コストの削減につながると考えられます。一方、単純な機能であってもそれぞれの機器に通信機能が必要となるため製造コストが高くなる問題点もあります。

中山間や都市近郊の野菜の生産においては、多様な種類の野菜が、多様な栽培様式で生産されています。例えば、レタスの露地栽培では、畝をたてビニールマルチをかけて栽培しているところは共通ですが、畝の中に2条に植える地域もあれば、4条に植える地域もあり、それぞれ畝の幅も異なります。また、同じく畝をたて移植を行う場合でも、作物が変われば適する畝の形状も変わってくるので、それぞれ機械の形状が異なります。また、圃場の大きさにより、機械も歩行型の耕耘機や乗用トラクターなど、利用する耕耘機の形状も一種類には決められません。このような、多様な栽培方法や機械に対応するためには、柔軟なレイアウトや機器構成で、多様な機械に搭載できるメリットが重要となってきます。従って、このような農用車両内のネットワークシステムは、欧米で利用されているような大規模向けの高額な機械だけではなく、今後は多種多様な作物に対応する小型で高性能な日本型の農作業機械においても価値があるシステムと考えています。

開発している速度連動型の施肥システムについては、兵庫県が実施した実証試験や技術検討会に提供し、市販機械へ実装して動作の確認を行っています。今後もこれらを通じて農家やメーカーの方々の意見も受けながら、本システムの利点を生かし、環境負荷低減や省力化に向けた利用場面を創出していきたいと考えます。

(環境保全型野菜研究チーム 奥野林太郎)

http://wenarc.naro.affrc.go.jp/team_group/team/09_vegetableproduction/

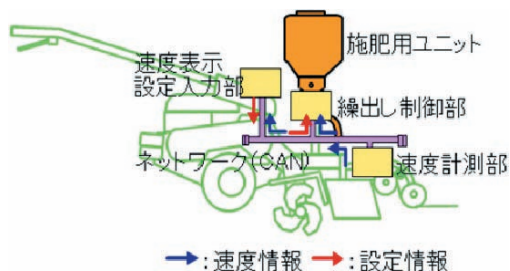


図 速度連動型歩行型施肥マルチャの概要



技術検討会 (兵庫県南あわじ市)

豆腐の加工に適した大豆新品種の育成に向けて

大豆は豆腐、味噌、納豆などに利用される栄養素に富む作物ですが、その多くは輸入大豆が占めており、自給率は大豆全体で5%、食用大豆に限っても21%に過ぎません（平成18年）。国産大豆の約半分は豆腐に利用されており、豆腐の加工に適した生産性の高い品種を育成することが、自給率を向上させるとともに消費者へ安全・安心な国産大豆を使ったおいしい豆腐を安定的に提供する鍵になります。

現在、近畿中国四国地域でもっとも広く栽培されている大豆品種は「サチユタカ」です。多収性で蛋白質含量の高い優良品種ですが、普及が広まるにつれて成熟期になっても黄化・落葉が不斉一（青立ち）でコンバイン収穫に支障があることや、種皮が破れやすい（裂皮）等品質上の問題が目立つようになってきました。このため、「サチユタカ」以上に栽培特性や品質が優れた品種を育成し、普及させることが大豆生産農家や実需者から求められています。

大豆育種研究近中四サブチームでは、近畿中国四国地域に適した大豆の品種育成を実施しており、これまでに有望な9系統を開発しました。この中で「四国1号」は青立ちが少なくコンバイン収穫に適しているなど機械化栽培適性は「サチユタカ」を上回っています（写真1）。また、「四国1号」は裂皮が少なく外観が美しい上、豆腐加工に重要な成分である蛋白質含量が高いなど良質系統で、国内品種の中で豆腐加工適性の評価が最も高い「フクユタカ」と比



写真1 サチユタカよりも機械化栽培に適した四国1号



写真2 四国1号はフクユタカより蛋白質含量が高く、外観品質も優れています

表 四国1号の豆腐加工適正（A社食品研究所）

品種・系統名	豆腐歩留り (%)	豆腐の固さ (g/cm ²)		
		酸凝固剤	澄まし粉	にがり
四国1号	10.07	80	107	71
サチユタカ	9.95	65	109	39
フクユタカ	9.88	86	109	64

豆腐歩留まりが高い 各凝固剤で硬い豆腐ができる

べても蛋白質含量が高く、外観品質も優れています（写真2）。

「四国1号」の豆腐加工適性を実証するため、メーカーに豆腐を試作してもらった結果、「サチユタカ」及び「フクユタカ」より豆腐歩留まりが高く、各種凝固剤で「サチユタカ」よりも堅くしっかりした豆腐ができることが明らかになりました（表）。また、食味試験でも、「四国1号」で作った豆腐は歯ごたえのある食感で、甘みやコクが感じられるなど、「サチユタカ」よりも1ランク上の高い評価を受けました。これらの試験は実験室レベルで実施したのですが、今後は工場レベルで豆腐を加工して、豆腐生産現場の条件で「四国1号」の加工適性を評価する予定にしています。

現在、おいしい豆腐用品種として登録することを目指して、「四国1号」を所内における各種試験に供試するとともに、県の奨励品種決定調査や農家圃場での現地試験などを実施しています。

（大豆育種研究近中四サブチーム 岡部昭典）

http://wenarc.naro.affrc.go.jp/team_group/subteam/a04_soybean/

鳥獣被害、果樹の先進技術を学ぶ～革新的農業技術習得研修～

この研修は、農業普及関係者が、農業現場における技術的問題の解決に必要な能力の向上を図ることを目的とし、農林水産省経営局普及課が開催する革新的農業技術習得研修の一環として、実施されています。

■「鳥獣害の実態と被害防止技術」習得研修

6月18日から20日までの3日間、佐賀県佐城農業改良普及センターにおいて、「鳥獣害の実態と被害防止技術」習得研修が開催されました。これまでは、当センター大田研究拠点（島根県大田市）で開催されてきましたが、九州で開催して欲しいという強い要望があり、本年度は、佐賀県の方々にご協力いただき開催しました。

研修は18日午後から始まり、鳥獣害対策を行う上での基礎知識と普及指導員の果たすべき役割、イノシシの生態や行動に基づいた被害対策について講義が行われました。19日には、イノシシの被害対策の講義の後、サル・ハクビシン・タヌキ・ヒヨドリの生態や行動特性とそれに基づいた被害対策について講義が行われました。講義終了後、屋外に移動して、仮設したイノシシやサルの侵入防止柵を見ながら、実際の設置方法や設置する際の注意点について実習を交えて講義が行われ、最後にイノシシの捕獲技術の実習を行いました。この日は、大雨の影響で、研修参加者の中には移動中の車が水没した方もおられましたが、それでも午後には雨が上がり、屋外での実習を無事終えることができました。最終日の20日には、研修を通しての質疑応答と総合討論を行いました。

今回の研修会に参加した受講者からは、現場で役立つ情報を得ることができ、また、より実践的な技術が身についたと好評をいただきました。

(鳥獣害研究チーム 上田弘則)



鳥獣害対策の基礎知識を熱心に聞く参加者



仮設の侵入防止柵による実習
(「金網忍び返し柵」のポイントは、折り返し30°の角度!)

■「果樹の省力・低コスト等対応技術」習得研修

7月23、24日の2日間、四国研究センター生野地区（香川県善通寺市）において、「果樹の省力・低コスト等対応技術」習得研修が開催されました。山形県から宮崎県まで、果樹栽培技術の普及に携わる16名の方々が参加され、講義や見学とともに、点滴かん水施設の組み立て実習を行いました（写真）。

この研修では、ウンシュウミカン栽培を中心に普及が進んでいる、シートマルチ点滴かん水施肥栽培（マルドリ方式栽培）について、施設の設置や取り扱い方法の理解を深めていただくことも目的としました。そこで、マルドリ方式栽培施設を設置した所内カンキツ園の見学とともに、省力化を目指して開発を進めている機械についてご覧いただきました。実習では、接続方法が少し違う点滴かん水チューブの接続を行いました。最後に水を流しても漏れは見つからず、適切に接続できていることを確認しました。

また、マルドリ方式栽培施設を設置して高品質果実を安定生産するためには、園地土壌の特性や樹体の生育状況などにあわせて適切に利用する必要があることから、樹体の水分生理特性に関する基礎的な理解を深めるため、近年の研究の現状を踏まえ、外部講師による講義が行われました。

多岐にわたる内容となりましたが、今回の研修で得た知識や経験を活かして、各果樹産地の活性化に向けた普及活動を進めていただきたいと思います。

(次世代カンキツ生産技術研究チーム 平岡潔志)



点滴かん水チューブの接続実習

トピックス

中学生の5日間～職場体験学習～

本所（福山市）では、8月18日（月）から22日（金）までの5日間、福山市内の2つの中学校から、2年生の生徒10名を受け入れ、農作業等の体験をしていただきました。この取り組みは、全国的にも実施されている職場体験学習への協力と、地域社会への貢献を目的としているもので、受け入れは、今年で5年目になります。

生徒達は、研究支援センター業務第1科の職員と共に畑に入り、初めて使う鍬（くわ）等にとまどいながらも、ナスやさつまいも等の収穫や除草作業を手伝いました。また、水稻や大豆の調査等も、職員や生徒同士でコミュニケーションをとりながら、真剣に作業に取り組んでいました。

5日間の体験学習を終え、生徒からは、全体的に楽しかったという感想が多く出されました。

この職場体験学習を通じ、農業や農業研究の大切さに少しでも関心を持ち、また、働くことの意義を理解し、意欲を持って次代を担ってくれることを祈っています。

（企画管理部情報広報課）



今後の予定

平成20年度 地域マッチングフォーラム開催案内

地域農業の振興を図るため、研究者、普及指導員、生産者、加工・流通関係者、行政担当者等が双方向の意見・情報交換を行い、お互いのニーズや問題点を把握するとともに、より効果的な成果の発信・普及等に取り組むことを目的として、本年度は、近畿地域、中国四国地域の2箇所で開催します。

どなたでも、ご参加いただけますので、ぜひお越し下さい。

■中国四国地域マッチングフォーラム

開催日時：平成20年12月2日（火） 10:00～15:00

開催場所：三朝町総合文化ホール

（鳥取県東伯郡三朝町大瀬999-2 TEL：0858-43-3512/FAX：0858-43-0647）

テーマ：飼料用稲を基軸とした耕畜連携システムの構築に向けて

主催：農林水産省農林水産技術会議事務局
農研機構 近畿中国四国農業研究センター

協賛：農林水産省中国四国農政局、社団法人農林水産技術情報協会

後援：鳥取県、鳥取県畜産農業協同組合、鳥取いなば農業協同組合、鳥取西部農業協同組合、
大山乳業農業協同組合

■近畿地域マッチングフォーラム

開催日時：平成20年12月10日（水） 13:30～17:00

開催場所：ガレリアかめおか

（京都府亀岡市余部町宝久保1-1）

テーマ：環境に優しく品質と収量を確保する野菜栽培の新技术

主催：農林水産省農林水産技術会議事務局
農研機構 近畿中国四国農業研究センター

協賛：農林水産省近畿農政局、社団法人農林水産技術情報協会

後援：京都府、京都府農業協同組合中央会、京都農業協同組合

お問い合わせ先：近畿中国四国農業研究センター 企画管理部 情報広報課 中村博志
(TEL：084-923-5385/FAX：084-924-7893)

近畿中国四国農業研究センター 一般公開 開催のお知らせ

■福山(本所)

「食」を考えよう～新しい技術や注目食材～

日時：平成20年9月27日(土) 9:30～15:00

場所：近中四農研センター本所
広島県福山市西深津町6-12-1
(問い合わせTEL：084-923-5385)

- 公開講座
 - 13:00～13:30 「米粉のはなし」
～米粉利用の歴史と展望、米粉パンの作り方～
講師：近中四農研 米品質研究近中四サブチーム 荒木 悦子
 - 13:30～14:00 「飛ばないナミテントウムシ」
～安全・安心な農のために～
講師：近中四農研 総合的害虫管理研究チーム 世古 智一
- 研究成果の紹介・展示、農業機械の展示
- 農業技術相談
- パソコンを使った「農作業管理ソフト」の体験コーナー
- さつまいも掘り(9:45～11:30/13:00～15:00)～いもがなくなるまで)
※お子様対象
- 子供科学教室(9:30～11:30/13:00～15:00)
- 木のねんど教室(10:00～12:00/13:00～14:30)
- 筋力測定コーナー(10:00～12:00/13:00～14:00)
- 試食(数に限りがあります)
 - ・低グルテリン米LGCソフトのおにぎり(9:30～/11:30～)
 - ・米粉パン(10:30～/12:00～/13:00～)
 近中四農研産の米に小麦グルテンを20%添加して、美味しいパンをつくりました。食糧自給率を見直すきっかけにご賞味ください。
- 販売(上下町の野菜・加工品、ソフトクリーム、(株)ピーターパン(明神町)の米粉パン等)
- 来場者には、さつまいもをプレゼント(数に限りがあります)

■四国研究センター

来て、見て、体験! 夢のある地域農業

日時：平成20年10月25日(土) 9:00～15:30

場所：近中四農研センター四国研究センター仙遊地区
香川県善通寺市仙遊町1-3-1
(問い合わせTEL：0877-62-0800)

- ミニ講演会
 - 9:30～ 鳥獣害(I)～なぜ増える、どう防ぐ～
鳥獣の餌源の急激な増加や急速に進む人慣れのメカニズムから、理にかなった対策を探ります。
知れば知るほどおもしろい! 「水」のフシギ!
 - 10:30～ 鳥獣害(II)～守れる畑と守れぬ畑～
鳥獣害に悩まされる畑と、鳥獣の侵入を見事に食い止める畑。この違いはどこにあるのか!
「守れる畑」への变身方法とは?
 - 13:00～ 日本の農作物を襲う海外の害虫
 - 14:00～ バイオマス利用
～油糧作物(ヒマワリ)の低温水田での栽培～
- 研究成果の紹介・展示
- 農業技術相談
- ゲーム・クイズ
 - ・大豆の箸つかみゲーム
 - ・農業〇×クイズ(10:00～/12:00～/14:30～)
 - ・スタンプラリー
- 実験・体験
 - ・自分で組み立ててみよう 拍動自動灌水装置
 - ・水浄化の実験
 - ・農業機械を見て、さわって、乗ってみよう
 - ・木のねんど教室～キーホルダーを作ろう～
 - ・麦わら細工で遊ぼう
- 試食(豆腐の味・食べくらべ、はだか麦を使った炊き込みご飯・お茶・ケーキ、まるどりみかん、トマト)
- 即売(花き、ヤーコン・大豆加工品 など)

■綾部研究拠点

地球にやさしい野菜づくり

日時：平成20年10月9日(木) 10:00～15:00

場所：近中四農研センター綾部研究拠点
京都府綾部市上野町上野200
(問い合わせTEL：0773-42-0109)

- 講演
 - 11:00～11:30 イチゴ高設栽培
 - 11:30～12:00 天敵害虫
- 研究成果の紹介・展示
- 農機具展示
- 土壌分析・診断(コップ一杯の土を持参してください)
- 野菜栽培相談
- 接ぎ木体験 “キャベコン”に挑戦!
上がキャベツで下が〇〇コンに?
ちょっと変わった病害対策にチャレンジしてみませんか?
- 試食(焼きいも、蒸しいも)
- 圃場見学(ナスと花畑、イチゴの高設栽培)
- 野菜即売(美山町産直野菜生産グループ)
- 来場者には、バンジー苗をプレゼント(数に限りがあります)

■大田研究拠点

牛だ! 祭だ! 全員集合!!

日時：平成20年10月26日(日) 10:00～15:00

場所：近中四農研センター大田研究拠点
島根県大田市川合町吉永60
(問い合わせTEL：0854-82-0144)

- 研究成果の紹介・展示
- 農機具展示
- 牛用の鞍(くら)の展示
- 放牧地見学
- 試食(黒毛和牛の焼き肉)



普段は、あまり見ることのない研究所の仕事は、是非ご覧になって下さい。
会場へのアクセス方法は、ホームページ等でご確認下さい。
ご来場を心よりお待ちしております。
※内容は一部変更になる場合があります。

人の動き

依頼研究員

依頼研究員	依頼期間	依頼件数
レタスビッグベイン研究チーム	平成20年7月7日～平成20年8月29日	1件

技術講習生

技術講習生	講習期間	講習件数
大豆育種研究近中四サブチーム	平成20年7月28日～平成20年8月15日	1件
特産作物機能性グループ	平成20年8月4日～平成20年8月13日	1件
組飼料多給型高品質牛肉研究チーム	平成20年8月25日～平成20年12月12日	1件
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	平成20年9月8日～平成20年9月12日	1件

お礼

近中四農研ニュースNo. 29の読者アンケートでは、多くの方に貴重なご意見をいただきました。ご協力いただき、誠にありがとうございました。今後の紙面改善に活用させていただきますので、今後とも、ご愛読のほどよろしくお願いたします。

近中四農研ニュース No.30

平成20年9月発行



編集・発行 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
近畿中国四国農業研究センター
〒721-8514 広島県福山市西深津町6-12-1
TEL (084) 923-4100 (代)
ホームページ <http://wenarc.naro.affrc.go.jp/>

印刷所 ふじ印刷株式会社